

タウンミーティング等での県民からの主な意見について

1 タウンミーティング—人づくり・森づくり・ふるさとづくり—

(1) 概 要

本県の新たな未来を切り拓き、人が輝く元気なふるさとを創っていくために、人づくり、森づくりをはじめ、県民が誇りを持てるふるさとづくりのあり方について、タウンミーティングを開催し、幅広く県民の皆様から意見を伺いました。

(2) 日時及び場所

(1回目) 10月2日(土) 14:00~16:15 富山市(富山県民会館 304会議室)

(2回目) 11月7日(日) 13:00~15:15 高岡市(高岡エクール 2階会議室)

・3回目以降、魚津市などで開催予定

(3) 参加人数 各会場約 200 人

(4) 森づくりに関する主な意見

富山会場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里山林の整備は、地域の文化や教育の向上にも役立っている。今後は、里山を中心とした様々な地域活動にも積極的に取り組んでいきたい。こうした取り組みを各地で広げるためにも、平成 23 年度までとなっている水と緑の森づくり税を延長してほしい。 ・ 森林ボランティアの育成や安全に関する教育を継続してほしい。 ・ 県産材を住宅に使うことにより森の整備につながる。県産材の意義や良さを PR するには非常に効果的なので、県産材住宅への助成を継続してほしい。その助成に水と緑の森づくり税を充てても良いのではないか。
高岡会場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 竹林は整備しても放置すると元に戻るため、森づくり税を活用し継続して取り組む必要がある。 ・ 里山林整備に着手した場所は、継続した整備を進めることが必要である。そのためには住民だけの力では限りがあるので、水と緑の森づくり税を活用した里山再生整備事業の支援を継続してほしい。 ・ 里山林の整備をはじめとして、人身被害が発生しないようクマ対策を強く実行してほしい。 ・ カシノナガキクイムシの被害木の防除を一層進めてほしい。また、カシノナガキクイムシの被害跡地に実のなる木を植えてはどうか。

2 水と緑の森づくり表彰受賞者と知事との森づくりトーク

(1) 概要

森林ボランティア団体等が行う森づくり活動を多く県民に知っていただき、この取り組みへの理解と参加を更に進めるため、「水と緑の森づくり表彰受賞者」による取り組み事例発表と知事との意見交換を「県民参加の森づくりフェア」の会場で実施しました。

(2) 日時及び場所

5月28日（金）11:45～12:15 射水市太閤山 太閤山ランド

(3) 参加者

知事、水と緑の森づくり表彰受賞者（5団体）、
とやま森の祭典参加者、太閤山ランド利用者 など約150人

(4) 森づくりトークにおける主な意見

受賞者	<ul style="list-style-type: none">・ 森のなかでの活動を通じて“楽しみ”が発見できれば、森づくりの活動が継続していけると思っている。・ 安全講習を絶えず行い、安全第一に里山の整備を続けていきたい。・ 自分たちの手で緑豊かな山々を守りたいと思い、森づくりの活動を続けてきた。これからも植樹活動を続けていきたい。・ 企業の森づくりを通じて、普段は当たり前にあると思っていた水を育む森に感謝する心が社員に生まれた。・ サポートセンターの支援は大変有り難い。これからも水と緑の森づくり税を活用して森林ボランティアへの支援を継続してほしい。
会場参加者	<ul style="list-style-type: none">・ 森林ボランティア活動にあたって、草刈り鎌やヘルメットを貸していただくなど、“とやまの森づくりサポートセンター”には大変お世話になっており、非常に感謝している。・ “水と緑の森づくり税”が導入され、“とやまの森づくり”活動が本格的に始まって、4年が経とうとしている。県内各地で、小さいながらも、自分たちで身近な森を何とか守ろうと頑張っている人たちもだんだんと増えてきたように感じる。・ 森づくり活動は継続が大事であり、そのためにも5年間となっている水と緑の森づくり税を継続してほしい。